

# 出演者プロフィール

橘 茂  
バリトン



京都市立芸術大学卒。ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。ヨーロッパ各地で劇場歌手を務めた後、帰国。後進の指導の傍ら、コンサートやオペラで活躍。  
京都市音楽家協会賞。神戸市新進芸術家協会賞。日伊音楽コンクール金賞。ザルツブルク国際モーツァルトコンクール(一位なし)二位。JSG国際歌曲コンクール二位、及び、聴衆特別賞受賞。  
関西二期会会員、シューベルト協会会員。  
現在、NHK文化センター梅田教室・西宮ガーデンズ教室講師、近畿大学講師、大阪市立大学混声合唱団フリーデヴォイストレーナー、だいたいリート主宰。

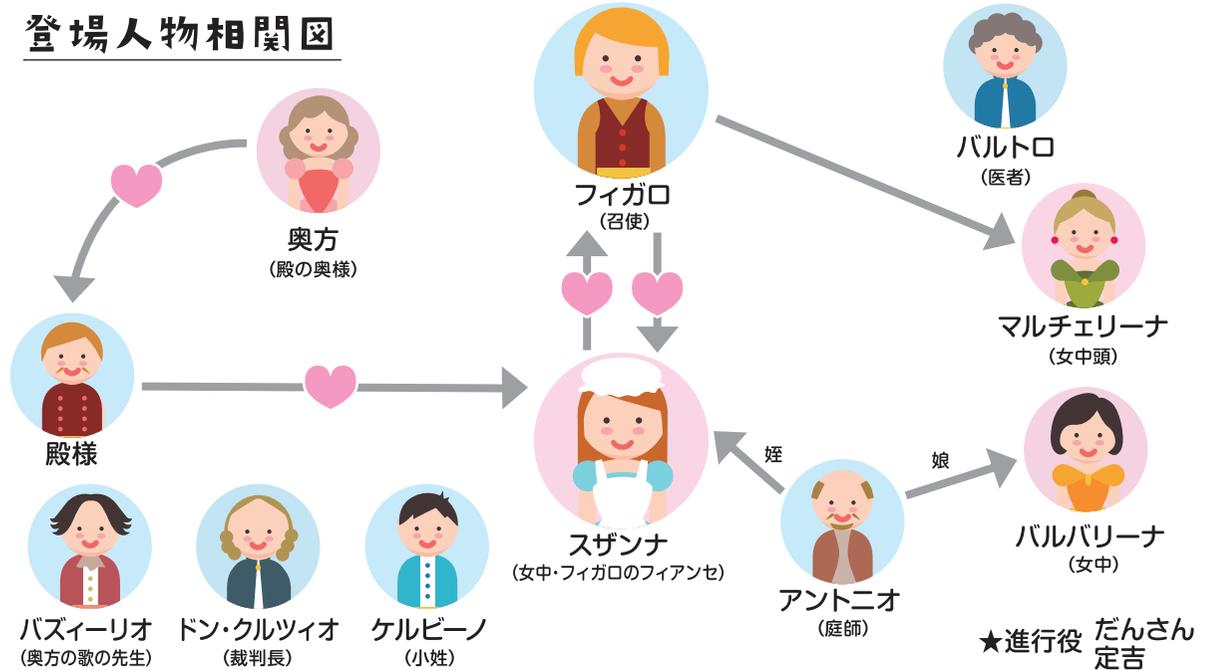


オーケストラピアノ  
金岡 優子

大阪音楽大学卒業  
八田 惇、故 武田 邦夫の両氏に師事。みつなかオペラ、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス、ニューオペラシアター神戸、喜歌劇楽友協会、加古川シティーオペラ等でコレパティールを務める。  
神戸オペラカンパニー会員。

## 登場人物関連図

# フィガロの結婚



ひとりオペラ版  
フィガロの結婚

モーツァルトの最高傑作 喜劇「フィガロの結婚」に橘流の笑いのスパイスを振りかけます！  
同じポーモルシェ原作「セビリヤの理髪師」の続編にあたり、前作で恋のキューピッド役として活躍したフィガロが、めでたく結婚すること。ところが主人の伯爵が花嫁のスザンナを狙っているというからさあ大変！  
とんだ結婚式の日がはじまります。さあ皆さん、一緒にとんだ一日を覗き見しましょう！

## 落語 de オペラ

オペラをもっと知って欲しい

オペラってどんなもの？ オペラって楽しい？ オペラって難しそう…  
観てみたいけれど楽しみ方が分からないという方は意外と多いのではないのでしょうか。でも、これって自然なことかも知れないですね。なぜならオペラは外国のそれも貴族の文化だったからです。“今となっては一般庶民も楽しめるようになりましたが”  
オペラのとっつきにくさを解消したい！もっと分かりやすい形でオペラを伝えたい！  
そう考えた橘さんがとった手法が「落語調」です。  
なぜ落語の要素をオペラに取り入れたのでしょうか？  
まず、なんといっても落語の持つ魅力の一つ「とっつきやすさ」。落語は笑いを全面にフューチャーした庶民のエンターテインメント。たとえ演目を知らなくても笑いの力のお陰で楽しめ、このとっつきやすさがオペラの難しそうを中和してくれるのです。笑ってやっぱり偉大ですね！  
そして語り部がひとり複数の登場人物を入れ替わり立ち代わり演じることも、落語の大きな特徴です。オペラは登場人物が多数登場します。ひとりオペラを表現する

のなら、この特徴は大きな利点になりますね。“というより落語でないで無理な気がする”  
このようにオペラに落語の要素を取り入れて分かりやすくなったのが「ひとりオペラ」なのです。  
ん？？だとしたら…  
「ひとりオペラ」ってオペラでも落語でもないんじゃない？？  
正解です！ この「ひとりオペラ」は落語でもオペラでもありません。橘さんがオペラを分かりやすく表現するために生み出したニュージャンルなのです！  
ひとりで物語を進めていく「落語」と「ひとりオペラ」。断家と歌手。舞台上で演じ笑いと感動を人に与えるところは、世界は違いますが共通しています。  
さあ、ニュージャンルの「ひとりオペラ」、落語にゆかりの深いこ若狭おぼまでゆっくりお楽しみください。新たな魅力の発見です！  
この「ひとりオペラ」が、あなたの「オペラ」への入口になるかもしれませんよ。

